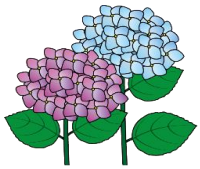

学校図書館だより
6月号

令和4年６月
柏市立富勢中学校
柏市学校図書館指導員
岩瀬　瞳

6月になり、紫陽花（あじさい）の花が色づきはじめました。「五月雨をあつめてはやし最上川」松尾芭蕉が「おくの細道」のなかで詠んだ一句です。「五月雨」は初夏にふる長雨のことです。旧暦の5月は太陽暦では6月から7月の梅雨にあたるので、この句は今ごろの季節に詠まれたものなのですね。季節をあらわす言葉を俳句では季語と言いますが、雨が続くこの時期をどんな言葉で表すことができるか、学校図書館に探しに来ませんか。雨の日だから生まれる俳句や短歌がきっとありますよ。

富勢中学校図書館の館長でもある須藤校長先生から、富勢中のみなさんへメッセージをいただきました！

富勢中学校図書館館長
須藤校長先生

本を読むことの良さ

私たちは普段から、わからないことを知りたいときには、手元のスマホで検索し、気軽にその概要などは知ることができます。しかし、「その情報にはどんな背景があるのか」、「別の見方や考え方はあるのか」など、もっと深く考えたいときには、「本」が重要な役割を果たします。

そして本を読んでいる人には、「知性（いろいろな物事に対し自分の考えをもっている状態）」が身に付いてきます。中学生の皆さんには、是非この「知性」をもって、学び続けてもらいたいのです。家庭や学校生活の一部に、またこれからの人生を考える参考として、自分なりの「本とのつきあい方」を考えていきませんか。

私の経験から、本を読むことの良さは、大きく２つあると思います。まず新しい知識や考えを獲得したり、自分では決して経験できない世界や人生を疑似体験したりできることです。そして本を読む時の私たちの中には、著者や編者の言いたいことを理解しつつ、それを読んでいる「自分と対話する」という心理が自然と働きます。これが学びを深めることにつながります。富勢中には明るくて使いやすい図書室があります。気軽に利用してください。

すてきなメッセージをありがとうございました！

今月のおすすめ本

＊6月10日は時の記念日。時空を超えるタイムトラベル小説をおすすめします。

『時をかける少女』
筒井康隆 著　角川書店
＜913／ツツ＞
放課後の誰もいない理科実験室でガラスの割れる音がした。ただようあまい香りをかいで、芳山和子は不意に意識を失う。そして目を覚ました和子の周囲では、時間と記憶をめぐる奇妙な事件が次々に起こり始めた。

『夏への扉』
ロバート・A・ハインライン 著
早川書房＜933／ハイ＞
親友と恋人に裏切られ、大切な発明までだましとられたぼくは、「冷凍睡眠」で未来へ旅立つことにする。時を超えて、大切なものを取りもどせるのか？　2021年に、日本で映画化された名作。

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』
東野圭吾 著　KADOKAWA
＜913／ヒガ＞
悪事を働いた３人が逃げ込んだ古い家。そこはかつて悩み相談を請け負っていた雑貨店だった。廃業しているはずの店内に、突然シャッターの郵便口から悩み相談の手紙が落ちてきた。

『流星ワゴン』
重松清 著　講談社
＜913／シゲ＞
人生をあきらめかけていた38歳のぼく。
ある夜、不思議なワゴンに乗った。そして―自分と同い歳の父と出逢った。僕らは、友達になれるだろうか。

★本は雨が苦手です。濡れないように気をつけましょう★

＊ライブラリーサーチより一部引用しています。